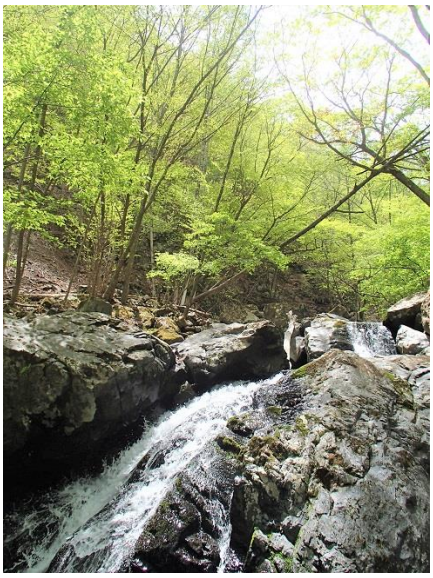
餅ヶ瀬川・押溜沢～下中手沢下降

記　Ｔ野

2019年5月18日～19日
メンバー　：　Ｔ野・Ｎ野・Ａ木・Ｓ木



ＧＷに山スキー納めも無事に終え、いよいよ沢登りの季節だ。日本の四季は本当に素晴らしい！！今年、初沢登りの今回は、サクサク行けば日帰りできる沢をのんびり1泊2日で焚き火もしっかり楽しめて、さらに今が旬の花アカヤシオや新緑も観たい！！と限りなく欲張り、足尾の袈裟丸山の東面にある餅ヶ瀬川周遊に決めた。比較的マイナーな沢だが、さてどんなところか？ということで報告です。

18日

朝7:00、秋葉原を出発。渋滞もなく東北道経由で順調に走り、10時前には餅ヶ瀬川の林道のゲートに到着。（林道の入口がわかりずらいが、足尾トンネルの手前の川沿いの小道を右に入る。）

10：20に林道を歩き始める。林道歩き約1時間で押溜沢出合、11:30に入渓。思ったより水量の多い立派な沢だ。今日は適当な場所まで行って気持ちの良い場所で焚き火を楽しむつもりなのでのんびりと歩く。沢自体、特に難しい場所もなく穏やかな沢歩きが続くが、久しぶりに見る眩いばかりの新緑が目に優しくまさに「日本の春！！」を感じる。ここは、沢屋よりも釣り師の沢のようで、釜が深く突破の難しい淵には立派な巻道がありトラロープが設置されている場所もある。行程は捗り13時頃には1277mの二俣を過ぎた2段10m滝の下に良いテン場を見つけタープを張る。薪も豊富で久し振りに焚き火ライフを満喫。豊富な酒とツマミで気持ち良く酔い、焚き火の横でのチョイ寝が気持ちいい。図らずも今回、リーダー部員3人が揃ったので真面目な話になる予感がしたがそんなこともなく（少しはしたような気もするが…）とりとめのない話題で盛り上がり夜は更けていった。

■写真上　春だねぇー！！新緑と小滝。
■写真中　この沢の核心部2段10m滝、ここは右壁を直登。
■写真下　きれいなナメも現れる！！ただ短い！！

19日

4時起床のつもりがやや寝坊、ただ、シュラフカバー1枚で寒かったのか、起きた時にはＮ野がすでに焚き火を熾し、有難いことにすでにお茶が湧いていた。釜揚げうどんで腹を満たし6時にテン場を出発。

初っ端から2段10m滝、この沢の核心部でロープが必要な滝だ。多くの記録は簡単に巻いているが右壁が登れそうなのでロープを付けて登る。思ったより下部が登りにくく、掴んだホールドが突然剥がれ、バランスを崩して危うくドボンしそうになるが何とか踏みとどまり、一気に目が覚める。ここからは

気を引き締めて慎重に登るが上部は思ったより易しく、支点も立木で取れたので安定して登ることができた（3級程度）。

この後、渓相が変わり、ところどころに美しいナメもでてきて楽しませてくれる。滝もいくつかあるが特に問題なく登れ、1500m付近の二俣を左に採ると沢が狭くなり傾斜が増す。冬の名残の残雪もあり、険しい雰囲気が漂ってくる。最後は右岸の尾根に逃げると獣道があり、藪漕ぎは全くなく支尾根に詰め上げた。ここからも藪のない尾根を少し辿れば問題なく登山道に合流。

今、まさにアカヤシオの旬の時期だからか登山道は多くのハイカーで賑わっていて、人気のない沢から突然歩行者天国に出たような感じだ。しばらく歩くと見覚えのある避難小屋着。ここからいよいよフラワーロードの始まりだ。思った通り満開だった！！曇り空にパッと映えるピンクの花々が山肌を染める。何度見ても素晴らしい光景で人気があるのも窺える。小丸山山頂では残雪豊富な日光白根も望めてアカヤシオバックに皆で記念写真！！天気も何とかもって今回も来て良かった！！

小丸山からは高原の散歩道のような気持ちの良い草原にアカヤシオのピンクが散らばり快適この上ない。1550m付近の鞍部でこのフラワーロードからこっそり道を外れて下中手沢の下降に入る。

■写真上　源頭にある5m滝。この辺りの地形は険しい。
■写真中上　小丸山山頂！！
■写真中下　高原のフラワーロード！！
■写真下　アカヤシオ満開！！

しばらく降りると多段15mの涸滝があり慎重にクライムダウン。ロープなしで降りたが不慣れな人がいる場合はここはロープを使用した方が安全だ。ここを降りるとほぼ何もなくただただ下降に没頭する。

いや、何もなくはなかった。

というより実は今回の山行一番の危機があった。ヒヤリハットとはまさにこのことだ。

トップでＮ野がサクサクと下降していき、少し離れてＴ野・Ａ木・Ｓ木が下降しているとき、突然、Ｎ野が立ち止まり何か叫んでいる。「〇マ！！」

何だ！！と思ってＮ野に近づいていくとＮ野の前方、すぐ5～6mに大きな熊！！Ｎ野と睨みあっている。こういう時どうすればよいのか？しばし茫然。Ｎ野はしばらく睨みあった後、岩の上で両手を天高く挙げ体を大きく見せるという行動をとった。それを見た熊は一目散に右岸の斜面を駆け登っていった。結果的にはＮ野が両手を挙げたことが功を奏したのだがＮ野、ホント勇気あるわ！！熊との異常接近は長い山人生で今回が2回目だが大人しく逃げてくれた熊に本当に感謝だ。

　この後は本当にもう何もなく、歩きやすい右岸の段丘をうまく拾って降りていくと餅ヶ瀬川と合流。対岸に上がれば昨日歩いた林道で12:40にゲート着。最後に波乱があったが何とか無事、初沢登りを終えることができた。

　帰路は銀山平のカジカ荘で温泉に浸かって（￥800）食事もここで済ます。温泉は良かったが食事はほかの場所を探した方が良い、というのがメンバー共通の意見でした。

■コースタイム
18日
ゲート（10:20）～（11:10）押溜沢出合（11:20）～（13:00）2段10m滝下のテン場
19日
テン場（6：00）～（6:03）2段10m滝～（6:40）5m滝～（7:00）綺麗なナメ～（9:00）支尾根～（9:20）避難小屋（9:30）～（9:40）小丸山（9:50）～（10:15）多段15m滝～（12:15）餅ヶ瀬川出合～（12:40）ゲート

■写真　下中手沢上部にある多段15m滝。ホールドは豊富だが高さがあるので慎重に下降。